

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	◆水明インターネット句会◆ 令和八年五月
指切りの逢瀬の朝や若葉風	新緑に染まるダム湖やホットドッグ	荒ぶ世の砂乾きゆく春の果て	新樹光真中庭師のピアスかな	大の字に草凹ませる春の昼	朝五時の薔薇ひそやかに濡れてゐる	短冊や七夕竹の天辺に	春落ち葉囁くやうにイヴ・モンタン	ツーランは九回の裏風薫る	嫋やかに風のあやとり糸柳	柳絮舞う風の薄衣すべりつつ	急降下羽根をV字に夏の蝶	海が呑む大き入日の立夏かな	君の肩に暫し休める天道虫	山里の一流のみの鯉幟	摘草や指先に香を忘れをり	一日を五月の空の中にをり	最後まで残してしまふ桜桃	蠅打ちで一茶になれぬ我が身かな	詰め放題袋は宇宙薄暑光	

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	◆水明インターネット句会◆ 令和八年五月
明易し紫ベスト古稀の父	さざ波をひらきゆくなり夏の鴨	傷癒えし君の背涼し木々の音	青蜥蜴ウルトラCの宙返り	明易や眠らぬラジオ深夜便	カラオケのマイク握れば明易し	海風に薔薇の香匂ふイタリー館	張力や跳力のプロあめんぼう	消灯に鎮まる団地梅雨の月	ぶらんこで君待つ夜や十五の日	川風に響く太鼓や五月場所	ポニーテール並んで揺れる街薄暑	彼の人の二の腕眩し立夏かな	父誘ひ三社祭の神谷バー	底のチェリー標本のごとソーダ水	宅配の鱸切り身や昼静か	カーネーションなまり明かやレジ打つ娘	鏡へと角度を測る夏帽子	出がらしの息吹き返す新茶かな	初音まだひとつ足らぬや浅き朝	

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	◆水明インターネット句会◆ 令和八年五月
ほうたるの消えし波間の闇深し	母の日や古きビデオに母の笑み	空き缶一つあれば夏野に暮るるまで	甚平着て昭和の自模りこの御世に	会葬の緩やかに解け薄暑光	草笛を吹きて母より逃げしこと	熊手もて掃きよせらるる夏椿	三年詠み二〇〇句目いま青葉かな	花あやめ滅紫（けしむらさき）の帯解く	病室の窓を切り裂く夏燕	金雀枝のしだれる先の高い塀	無印をユニクロに替へ更衣	白日傘老いらくの恋はじまりぬ	君はもういないのですね青時雨	我家では紅一点や芥子の花	公式のみなうつくしき初茄子	昼寝してネル着たおやじ想いだし	糸桜湧き来る風によるめきぬ	初夏の山歩き疲れて一周し	ファミレスの浅利のスープに癒されて	

(5)

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81		
																アイリスの束はバケツに朝の市	夏燕建設事務所に人は無し	茅葺きや高々と立つ鯉幟	風薫るみなとみらいのカフェテリア		
																					◆水明インターネット句会◆ 令和八年五月